

## 第3章 計画の目標

### 3-1 世田谷区をめざす将来像

#### ～小さなエネルギーとまちのみどりで豊かに暮らす～ 持続可能な未来につなげるまち せたがや

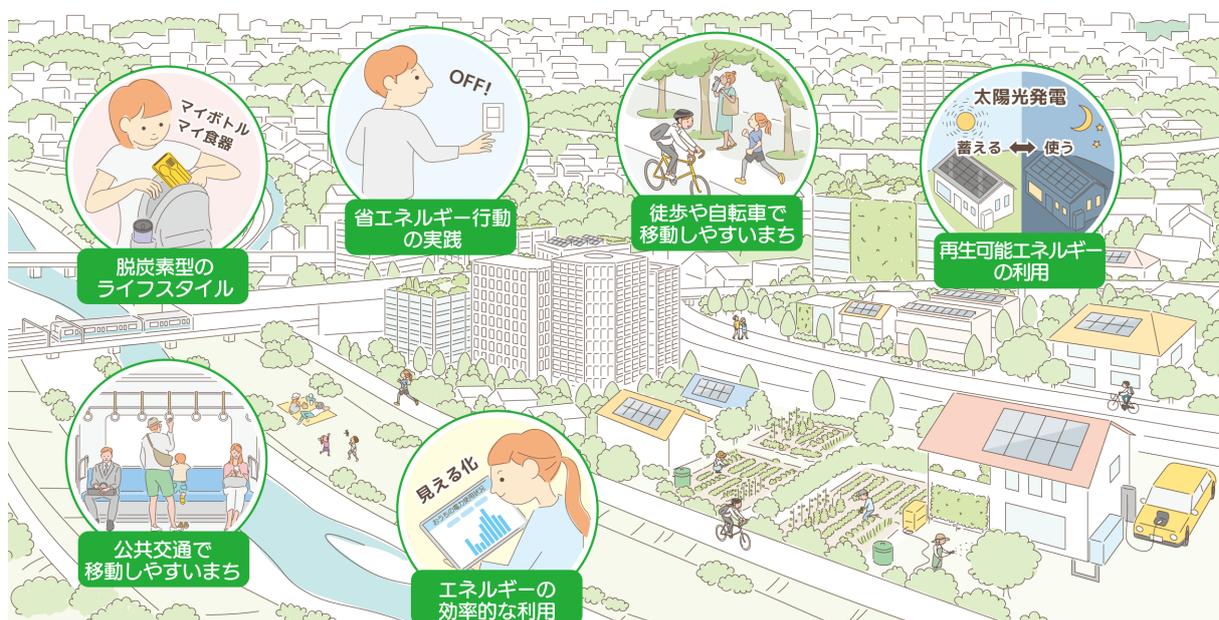
地球温暖化に起因する強力な台風や集中豪雨の頻発、その被害は年々深刻化しています。しかし、世界のCO<sub>2</sub>排出量は、今なお増加が続いており、今後も、極端な高温や大雨が発生する可能性がより高くなるとされるなど、気候変動問題は、気候危機と呼ぶべき非常事態に直面しています。

将来を担う世代に、みどりに恵まれた良好な環境を引き継いでいくため、区民・事業者・区をはじめあらゆる主体が一丸となって、地球温暖化の緩和と適応に取り組んでいくことが必要です。

そのために、これまで以上に省エネルギー・エネルギーの効率的な利用に取り組むとともに、太陽光をはじめとする自然の力を活かして生み出される再生可能エネルギーの利用を拡大します。これらの取組みによってCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロをめざしながら、健康で快適に暮らせる住まい、みどり豊かで歩いて暮らせるまちなど、より豊かな暮らしを実現していきます。

同時に、自然が有する多様な機能を賢く活用し、持続的で魅力あるまちづくりを進める取組みであるグリーンインフラを取り入れ、気候変動に対する強さとしなやかさをもったまちをつくります。

国や東京都の施策と連携を図りながら、区民・事業者・区の協働によりこれらの取組みを進め、脱炭素社会を構築していきます。そして、持続可能な発展を実現し、良好な環境を次世代に引き継いでいきます。



## 3-2 総量削減目標

2018年に公表されたIPCC「1.5℃特別報告書」では、「温暖化の影響は1.5℃の上昇でも大きいと2℃になると更に深刻になり、1.5℃未満の抑制が必要であること」、「気温上昇を止めるためには、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量を半減し、2050年頃までに正味ゼロとする必要があること」が示されました。2021年10月から11月にかけて開催されたCOP26においては、1.5℃目標に向かって世界が努力することが合意されました。

国内では、2021年5月に改正された「地球温暖化対策の推進に関する法律」において、2050年までの脱炭素社会の実現が基本理念として法に位置付けられました。また、2021年10月に閣議決定された国の新たな地球温暖化対策計画において、「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。」という目標が示されました。

また、区は、国に先駆けて2020年10月16日に行った「世田谷区気候非常事態宣言」において、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロをめざすことを表明しました。

これらの経緯を踏まえ、本計画においては、長期目標を2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロとし、その達成に向けた中間段階の目標として2030年度までの中期目標を設定します。

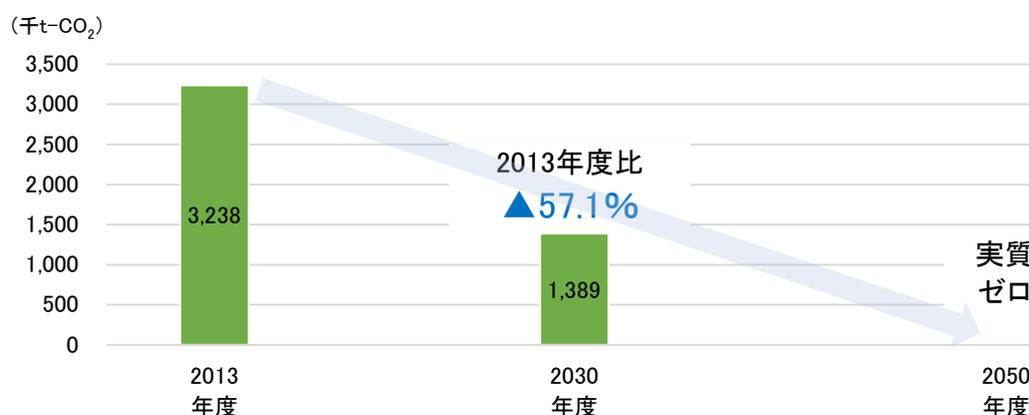
### (1) 長期目標

達成すべき  
目標

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにします。

気候危機の状況を脱し、次世代に良好な環境を引き継いでいくため、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにします。【達成すべき目標】

あわせて、区民・事業者・区が一体となって対策を積み上げ・深掘りしていくことにより達成する、野心的な目標として、2045年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成することをめざします。【野心的な目標】

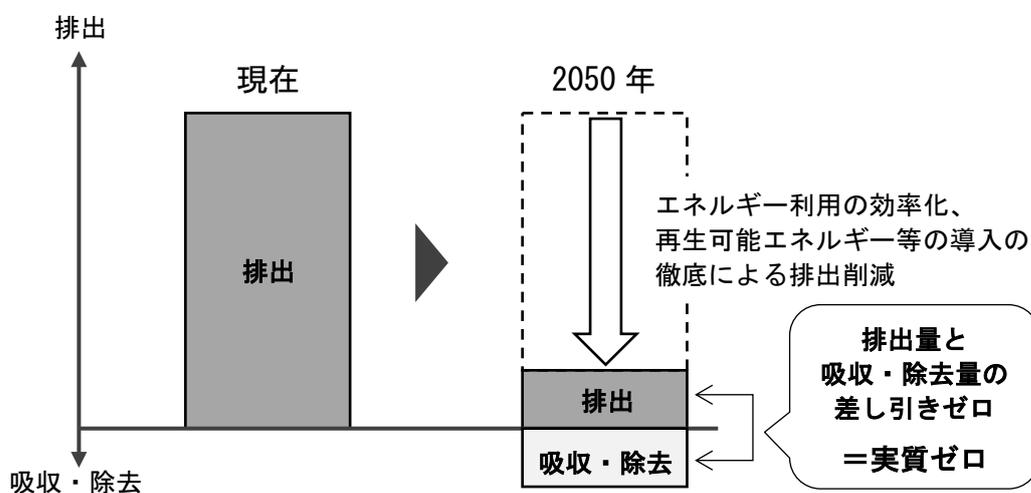


## 「実質ゼロ」とは

温室効果ガスまたはCO<sub>2</sub>排出の「実質ゼロ」は、「排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする」ことを意味します。

エネルギー利用の効率化、再生可能エネルギー等の導入を徹底しても、排出を完全にゼロに抑えることは現実的に困難です。このため、排出せざるを得なかった量から、森林などによる吸収量、CO<sub>2</sub>を回収・貯留する技術などによる除去量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることをめざすものです。

世田谷区では2032年に区内のみどり率33%の達成をめざす「世田谷みどり33」を中心に、みどりの保全・創出に取り組んでいます。こうした取組みによる吸収量の拡大は、「実質ゼロ」達成に貢献するものです。



## コラム

### みどりによるCO<sub>2</sub>吸収

樹木は、光合成によって吸収した大気中のCO<sub>2</sub>を体内にセルロースの形で固定することで成長します。

区内には、国分寺崖線沿いの樹林地、社寺林、屋敷林、公園、街路樹など、様々な場所に樹木が育つみどりの環境があります。これらのみどりによるCO<sub>2</sub>吸収量は、年間約14,000 t-CO<sub>2</sub><sup>※1</sup>と試算されます。これは、約4,880世帯分<sup>※2</sup>（区内世帯数の約1%）の年間CO<sub>2</sub>排出量に相当します。

※1 「地球温暖化対策計画における対策の削減量の根拠」において、2030年度に整備面積85千haの吸収量が124万t-CO<sub>2</sub>と設定されていることから、樹木被覆地1ha当たりの吸収量を14.59t-CO<sub>2</sub>と想定し、区内の樹木被覆地面積963.19ha（2021年）を乗じて算出

※2 ※1の算出結果を世帯当たり排出量2.88t-CO<sub>2</sub>（環境省「令和2年度家庭部門のCO<sub>2</sub>排出実態統計調査」より）で割って算出

みどりの吸収量  
年間  
約14,000t-CO<sub>2</sub> **＝ 約4,880世帯分  
の排出量に相当**



## (2) 中期目標 [2030 年度]

脱炭素社会の実現に向けては、省エネルギー化とエネルギーの効率的利用によって使うエネルギーを減らしていくと同時に、再生可能エネルギー等の利用を拡大し、エネルギーの脱炭素化を進めていく必要があります。

そのため、本計画においては、中期目標として、温室効果ガス排出量（7ガス全体）及び区民や事業者の取組みの努力が反映されるCO<sub>2</sub>排出量の削減目標を掲げるとともに、エネルギー消費量、再生可能エネルギーの利用に関する目標を併せて設定します。

### ①温室効果ガス排出量（7ガス全体）

<b>達成すべき目標</b>	2030 年度において、2013 年度比で 57.1%削減をめざします。
<b>野心的な目標</b>	さらなる挑戦として、2013 年度比で 66%削減を掲げます。

国や都が示す 2030 年度の温室効果ガス排出量削減目標を踏まえた上で、2030 年度の世田谷区における温室効果ガス排出量の将来予測に、電力排出係数の改善、現時点で想定し得る国等による対策効果、CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスの削減を積み上げ、さらに、区が独自に追加し実施する対策の効果を加えて、2013 年度比 57.1%の削減をめざします。【達成すべき目標】

さらに今後、時勢を捉え、新規施策の実施や既存施策の拡充を継続的に推し進めることで達成する目標として、2013 年度比 66%の削減を掲げます。【野心的な目標】

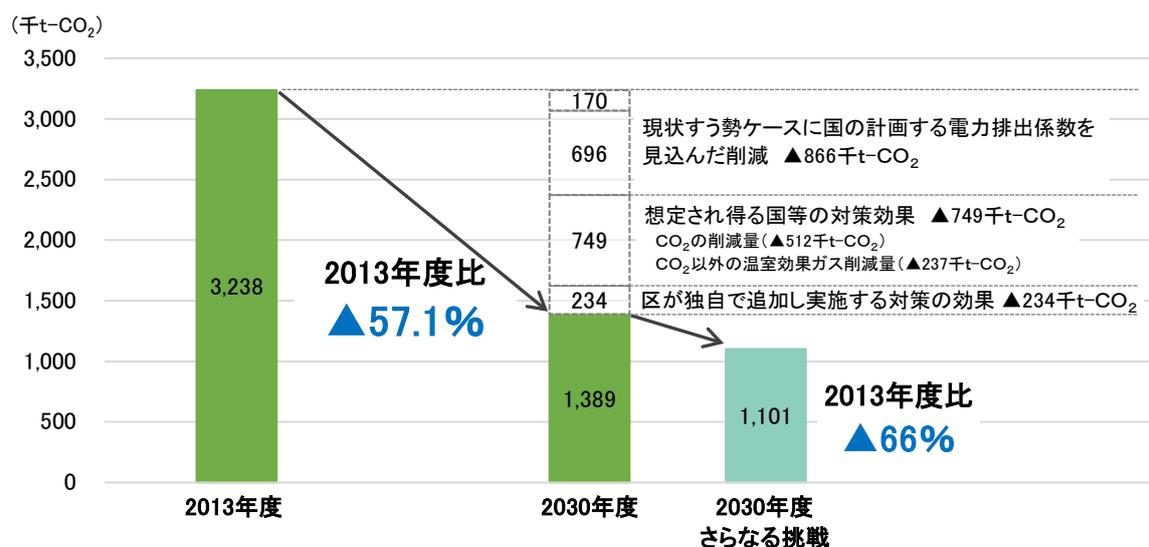


図 温室効果ガス排出量（7ガス全体）の削減目標

区全体で 2013 年度比 57.1%の削減を実現するための部門別目標として、産業部門 48%削減、家庭部門 69%削減、業務その他部門 56%削減、運輸部門 69%削減、廃棄物部門 3%削減の達成をめざします。

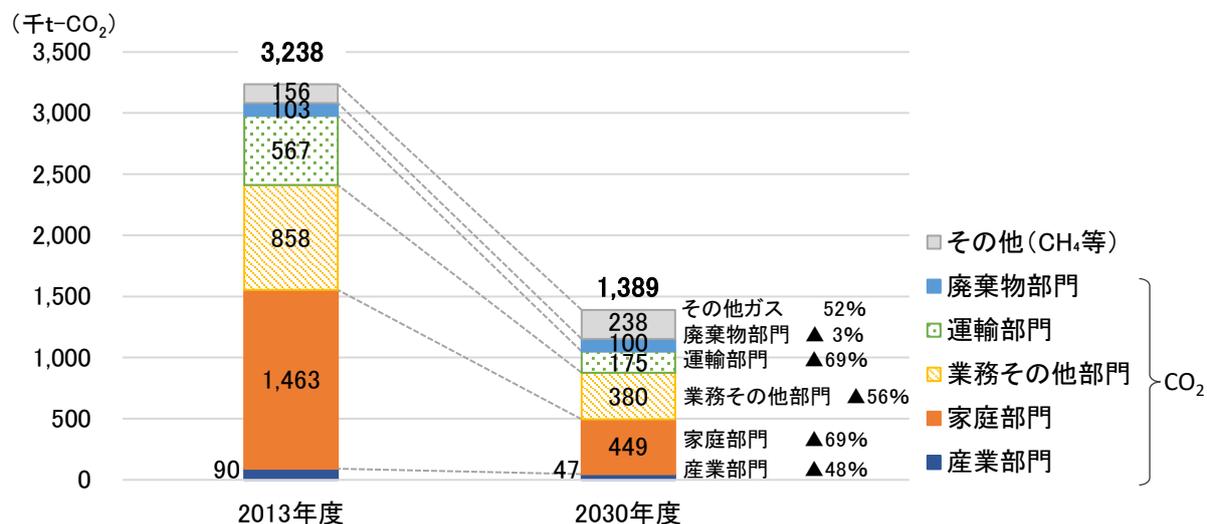


図 部門別の削減目標

## ②CO<sub>2</sub>排出量

達成すべき  
目標

2030年度において、2013年度比で62.6%削減をめざします。

CO<sub>2</sub>排出量は、世田谷区において温室効果ガス排出量の大半を占めることから、本計画の削減目標として設定します。

## ③エネルギー消費量

達成すべき  
目標

2030年度において、2013年度比で40.7%削減をめざします。

エネルギー消費量は、数値が変動する電力排出係数（p. 29 参照）の影響を受けず、区民や事業者の努力と成果を正しく評価することができるため、本計画の削減目標として設定します。

## ④再生可能エネルギーの導入に関する目標

達成すべき  
目標

2030年度において、再生可能エネルギーを利用している区民の割合※50%をめざします。

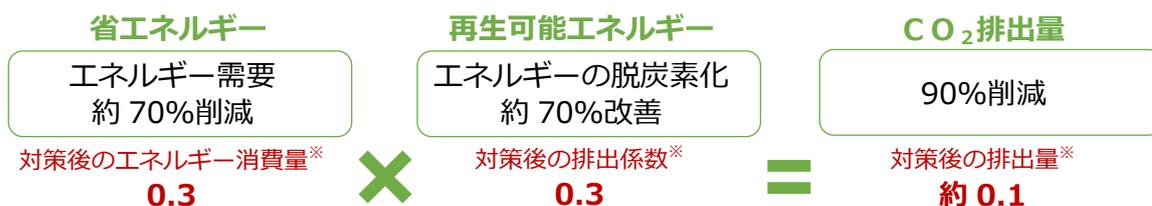
※ 「世田谷区環境に関する区民意識・実態調査」の有効回答者のうち、「再生可能エネルギーを利用している」と回答した人の割合

### コラム

#### 省エネルギーと再生可能エネルギーの相乗効果

CO<sub>2</sub>排出量削減は、省エネルギーと再生可能エネルギーを組み合わせることで、相乗効果が生まれます。

同じ削減量をめざすとき、エネルギーを使う側とつくる側が協力すれば、少ないコストで大きな効果を生み、目標を達成することができます。



※ 対策前を1としたときの対策後の値

---

### 3-3 個別削減目標

---

世田谷区の温室効果ガス排出量を着実に削減していくため、排出特性を踏まえた指標と目標を設定します。

具体的には、区全体のCO<sub>2</sub>排出量に占める割合が最も高い家庭部門に着目し、家庭での1人当たりCO<sub>2</sub>排出量及び1人当たりのエネルギー消費量を指標とし、電気、ガスなどのエネルギー消費の削減を促していきます。

#### [家庭部門の個別目標]

<b>達成すべき 目標</b>	2030年度において、 <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭での1人当たりのCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比で71%削減</li><li>・家庭での1人当たりのエネルギー消費量を2013年度比で45.1%削減</li></ul> をめざします。
---------------------	--

コラム

家庭でのCO<sub>2</sub>排出・エネルギー消費削減に向けた取組み

2020年度における世帯当たりの年間CO<sub>2</sub>排出量（電気、ガス、灯油の合計）は2.88t-CO<sub>2</sub>です（環境省「令和2年度 家庭部門のCO<sub>2</sub>排出実態統計調査」）。

STEP 1～STEP 3の対策を積み重ねることで、約70%の排出量を削減できます。

**STEP 1**  
日常的な省エネ行動  
年間の削減効果 約0.36t-CO<sub>2</sub>

使わない照明、家電 こまめに電源 OFF

適切な温度設定  
季節に合わせて調整

省エネモード設定の利用

**STEP 2**  
家電などの買い換え 電気の契約変更  
年間の削減効果 約0.75t-CO<sub>2</sub>

LED照明への変更  
→年間0.05t-CO<sub>2</sub>削減

省エネ型家電への買い換え  
→年間0.27t-CO<sub>2</sub>削減

電気料金プランの変更  
→再エネ比率30%のプランに変更した場合  
年間0.43t-CO<sub>2</sub>削減

**STEP 3**  
住宅設備の対策  
年間の削減効果 約0.90t-CO<sub>2</sub>

窓の断熱化  
→年間0.36t-CO<sub>2</sub>削減

太陽光発電の導入  
→年間0.54t-CO<sub>2</sub>削減

STEP 1からSTEP 3まで  
実行すると  
世帯当たり年間排出量  
(2.88t-CO<sub>2</sub>)※の  
**約70%を削減!**

※環境省「令和2年度家庭部門のCO<sub>2</sub>排出実態統計調査」

さらなるSTEP UP  
ZEH・ZEV導入  
CO<sub>2</sub>排出実質ゼロ!

ZEH 太陽光発電

日射遮蔽  
高断熱窓  
高断熱外皮

HEMS 高効率給湯器  
蓄電システム

ZEV

高効率照明

外出時に徒歩、自転車、公共交通機関で移動する、マイバックやマイボトルを利用する、食品の適量購入や食べきれぬ量の調理を心がける、環境に配慮した商品やサービスを選択するなど  
の取組みにより、CO<sub>2</sub>をさらに削減することができます。

■エネルギー消費の削減に向けた取組みの効果

	取組み	省エネ効果 (年間)	家計の節約 (年間)	CO <sub>2</sub> 削減量 (年間)	
リビングルーム	冷房時の室温は28℃を目安にする	電気 30.2kW	800円	14.8kg	
	冷房の使用時間を1日1時間減らす	電気 18.8kW	500円	9.2kg	
	暖房時（エアコン）の室温は20℃を目安にする	電気 53.1kW	1,410円	26.0kg	
	暖房（エアコン）の使用時間を1日1時間減らす	電気 40.7kW	1,080円	19.9kg	
	フィルターをこまめに掃除する（月2回程度）	電気 32.0kW	850円	15.6kg	
	電気カーペットは広さにあった大きさにする	電気 89.9kW	2,380円	44.0kg	
	電気カーペットの設定温度は「強」から「中」にする	電気 186.0kW	4,930円	91.0kg	
	こたつの設定温度を低めにする	電気 49.0kW	1,300円	24.0kg	
	テレビ画面は明るすぎないように設定する	電気 27.1kW	720円	13.3kg	
	白熱電球（54W）をLED電球（8W）に交換する	電気 92.0kW	2,440円	45.0kg	
	照明の使用時間を 1日1時間減らす	白熱電球（消費電力54W）	電気 19.7kW	520円	9.6kg
		蛍光灯（消費電力12W）	電気 4.4kW	120円	2.2kg
		LED電球（消費電力8W）	電気 2.9kW	80円	1.4kg
	モップや雑巾を使って掃除機をかける時間を減らす	電気 16.4kW	430円	8.0kg	
	パソコンを使う時間を 1日1時間減らす	デスクトップ	電気 31.6kW	840円	15.5kg
		ノート	電気 5.5kW	150円	2.7kg
パソコン（デスクトップ）の電源オプションの見直しをする	電気 12.6kW	330円	6.2kg		
キッチン	冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置する	電気 45.1kW	1,190円	22.1kg	
	冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を調節する	電気 6.17kW	1,630円	30.2kg	
	冷蔵庫にはものを詰め込まない	電気 43.8kW	1,160円	21.4kg	
	炊飯器の長時間保温はせず、使わないときはプラグを抜く	電気 45.8kW	1,210円	22.4kg	
	電気ポットの長時間保温はしない	電気 107.5kW	2,850円	52.6kg	
バス・トイレ・洗面所	洗濯物はまとめて洗う	電気 5.9kW 水道 16.8 m <sup>3</sup>	4,190円	14.1kg	
	衣類乾燥機はまとめて使い、回数を減らす	電気 42.0kW	1,110円	20.5kg	
	こまめにシャワーを止める	ガス 12.8 m <sup>3</sup> 水道 4.4 m <sup>3</sup>	2,440円	30.7kg	
	お風呂は間隔をあけずに続けて入る	ガス 38.2 m <sup>3</sup>	4,130円	82.9kg	
	使わないときは、電気便座のふたを閉める	電気 34.9kW	920円	17.1kg	
	電気便座の設定温度を低くする	電気 26.4kW	700円	12.9kg	
	歯磨き中、水を流しっぱなしにしない	水道 3.9 m <sup>3</sup>	940円	2.6kg	
ドライブ	ふんわりアクセル「eスタート」	燃料 83.57ℓ	11,950円	194.0kg	
	加減速の少ない運転	燃料 29.29ℓ	4,190円	68.0kg	
	早めのアクセルオフ	燃料 18.09ℓ	2,590円	42.0kg	
	アイドリングストップ	燃料 17.33ℓ	2,480円	40.2kg	

（参考文献）

- ◇リビングルーム／キッチン／バス・トイレ・洗面所  
東京都環境局地球環境エネルギー部地域エネルギー課「家庭の省エネ対策ハンドブック 2021年度版」
- ◇ドライブ  
資源エネルギー庁「無理のない省エネ節約」  
([https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/general/howto/](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/howto/))